

スポーツ博物館将来構想検討会議（第3回） 議事要旨

日時：平成30年10月5日（金）10：00～12：00

場所：日本スポーツ振興センター本部事務所 大会議室1

出席者：【委員】黒川座長、井上座長代理、泉委員、寺澤委員、前田委員、山下委員

【オブザーバー】 スポーツ庁 鈴木政策課長、JOC 松丸常務理事

【JSC】大東理事長、小菅理事、今泉理事、河村スポーツ博物館長 ほか関係職員

議 事：

1. ヒアリング（井上座長代理）

「スポーツ博物館に期待する今後の資料収集・調査研究と博物館の在り方」についてヒアリングを実施。（資料1）

井上座長代理から配布資料に基づき意見発表後、質疑応答。

2. 今後のスポーツ博物館について

事務局から資料2及び3について説明し、質疑応答。

山下委員から情報提供。

3. 本検討会議の「審議のまとめ」骨子（案）について

事務局から資料4について説明し、質疑応答。

[1 ヒアリングの主な内容]（井上座長代理）

- ・博物館を健全に運営するためには、活動の主軸となる複数の正規学芸員の配備が必要になる。
- ・我が国の数多くのスポーツ博物館全体において、収蔵品リストの公開や、各地での展示事業の実例や資料に関する情報を交換し合える横断的なネットワーク構築が必要であると考えます。
- ・現状では、スポーツ関連の資料が文化財にもなりうるという考えが足りていないのではないかと。
- ・現在、東京国立博物館（以下「東博」）では、本館のリニューアルを視野に入れた展示事業の充実を検討しているが、その根幹として考えなければいけないのは、資料の保存とともに調査研究体制の整備（研究員の増員、人事交流の推進）である。
- ・博物館活動において教育普及・ボランティア活動は極めて大切である。また、しっかりとした広報戦略を持って館の紹介に当たっていくことが重要である。
- ・博物館の資料収集に当たっては、明確でしっかりとした意思をもって取り組むことが重要である。私たちは様々な分野でどのような資料が不足しているのか、このような目的でこの資料が必要なのだというようなことを明確にしつつ資料を収集し、その重要な資料を幅広く活用するためにしっかりとした保管を心掛けている。
- ・博物館活動の根幹をなす、調査研究なくしては、博物館活動が健全に行われているとは全く言えない。スポーツ博物館においても正規の学芸員の配置が必ず必要である。
- ・私たちが大切にしなければいけないのは、来館者サービス。Wi-Fiの導入、週末（金・土曜日）の夜間開館の充実、トーハクキッズデーの実施、託児サービスの実施など、様々な来館者サービスに努めている。

- ・博物館活動の中で、入場者収入以外の収入が 14.1%ある。これは様々なイベント、映画や CM の撮影への貸出など施設の有効活用、東博を会場として他の目的で使ってもらい、ユニークベニューなどによる収入である。
- ・来館者調査だけでなく、非来館者調査により「なぜ来ないのか」を認識することが重要。

[1 ヒアリングに対する主な意見]

- 世界水泳などの開催時には、500 人、1,000 人規模のパーティのために大英博物館を借り切ったり、恐竜の骨が展示してある部屋でパーティをしたり、といったことが外国では普通に行われているが、海外と比較して何か違いはあるか。
- そのような海外の例を参考にしながら展開しているが、展示室内では行っていない。また、パーティでの利用であれば平米数に応じて料金を徴収している。
- 建物の維持管理にかかる費用はどのぐらいなのか。金額的にはかなり大きいのではないか。
- 正確なデータは手元にないので分からないが、維持費としては年間約 2 億円かかっている。
- 料金設定について、国立だと基本的に税金を投入しているのだから、あまり高い料金を設定してはならないという、私の立場から言わせていただければ必ずしも正しくないことが行われているように思う。海外では、博物館であれば維持管理、運営レベル、サービスの向上につながる投資のための費用を入館料から捻出するべきだ、という考えが強いと思うが、そのあたりはどうなのか。
- 全くおっしゃる通りであるが、博物館には博物館法というものがあり、入場料について「原則無料」と定められている。無料という大前提で、特例的に「特別な場合にはその限りではない」という一文がある。東博では現在 620 円（高校生までは平常展は無料）であるが、入場料が安いのではないか、文化を支えるという意味合いで応援してもらったらどうかということで料金の値上げについて指摘を受けている。

[2 に関する委員からの主な意見]

山下委員から三重県総合博物館の取組事例の紹介

- ・三重県総合博物館は、「みんなで作る博物館」をテーマに、地元の企業との連携も活動のひとつの柱としている。財政状況が厳しく予算がカットされたことから、自分たちでも収入を得る方策を工夫し努力している。
 - ・経営検討委員会を設け、地元銀行、新聞社、企業の方を入れて応援を受けながら、開館前から職員が企業を回り、博物館のパートナーシップ会員としての協力依頼を行った。
 - ・パートナーシップには 3 年コースと 5 年コースがあり、その会員の特典の 1 つとして「コーポレーション・デー」（当日の基本展示の観覧料を企業が負担することで来館者は無料になり、企業はそこで自社の紹介やイベントなどを行うことができる制度）というものがある。
 - ・例えば周年事業が予想される企業があれば、博物館の職員が出向いてコーポレーション・デーの提案をすることもある。博物館側も地域に出て行くことによって地元企業の事業内容を知り、また企業も博物館との距離を縮める機会につながっている。
- 収入を考える場合、立地条件などによって事業計画などが全て変わってきてしまうので、収入確保策について議論する前に、まずは将来構想の中で、どういう場所にどの程度の規模で再館していくのか決め

なければならないと思う。実際に事業収入を増やすために何をするのかといったことは、前提がはっきりしないと話が進みにくい。

- 東京国立博物館の話聞いて、資料を収集・保存・整理し、調査・研究をする専門人材を配置することが不可欠だと思う。また、現在所有している資産をどのように活用していくかをしっかりと構想していくことで、様々な事業を検討することが大切だ。例えばミュージアムグッズの販売をするショップにしても誰に対してどのようなサービスをするのか、また求められているのかなど構想を立てることで、自ずとどのような売り場で、どのくらいの面積が必要なのかも分かってくる。

年次計画については、広報や資金調達計画が記載されていないが、計画に含めた方が良い。

- 場所と規模を決めて、できるだけ早期に実現に向けて動き出さなければいけないという点は同意できる。その上で、年次計画のフェーズ1では「研究者を交えたワーキンググループ」とあるが、今後の秩父宮スポーツ博物館を担っていく様々な分野を専門とする学芸員をできるだけ早期に配備し、そして一緒になって新たな博物館を創っていくという方向にすることが必要である。

- 国立公文書館でも新館建設に向けて検討しており、広報をどうするかは大きな話題の一つとなっている。先ほど事例に挙げた MieMu（三重県総合博物館）のように、開館までにどんな博物館にしたいのか。をワークショップを幾度も開催して考えてみるというのは良い取組だと思う。

設置場所に関して、場所がどこになろうとも専門人材の育成・体制整備の重要性は変わりがないと考える。体制は早々に整備した方が良い。

資料で提示された「収入・支出」について、施設整備費や運営費が含まれていない。すべての支出が網羅されているとは思えないので、支出の全体像をどう捉えるか、考え方の整理をした方が良い。

[3に関する委員からの主な意見]

- 既にご存知のように4月末に日本スポーツ協会と JOC の新会館が竣工するが、資料室は設けるものの、今の資料室より相当狭くなる。日本スポーツ協会の関係資料は引き継ぐが、その他の資料は寄贈や破棄も考えている。

また、各競技団体は多くの資料を持っているが、新しい会館に倉庫スペースが少ないため、この機会に持っていく場がなく捨ててしまう可能性が高い。相当の資料がここで散逸してしまう懸念があり、非常に心配している。もし可能であれば、スポーツ庁に音頭を取っていただき、JOC、JPC、JSC も一緒になって、今年度末ぐらいまでに1回情報交換会のようなものを開いて、資料が散逸しないように役割分担をして保管しようという話し合いができる場があると良いのではないかと。

- JSPO・JOC ビルを作られるときに、そのようなことを検討されなかったのか。
- 今度の新会館は14階建であるが64団体が入居予定のためスペースがないという状況である。建ぺい率の関係でこれ以上大きくできなかった。
- 前回の会議でオリンピックミュージアムの紹介があったが、例えばそのスペースを使うということも考えられたのでは。
- そこは展示室としてのスペースで、ストックとしては全然足りない。
- そこは考え方であって、展示で使うのか、保存に使うのかは選択の話になるのではないかと。
- 基本的には、日本スポーツ協会関係のものだけはきちんとストックをして、移設・展示できるようにするが、すべてを破棄してしまうということではない。昔のオリンピックの古い写真など、重要なものもたくさんある。これらは一応別のところに倉庫を借りる予定でいるが、今あるものを全部持っていくわ

けにはいかないので、この機会に必要なものと仕分けしたいと考えている。

- 現在、各競技団体は岸記念体育会館の倉庫に競技団体の歴史に関する資料を大量に保管していたが、新会館への移転を機に重要資料が相当散逸することが考えられるので、みんなで考えていく必要があるということではないか。資料の中に日本の重要なスポーツの歴史のものが含まれているので、秩父宮記念スポーツ博物館がもしスポーツの総合博物館としての役割を果たしていくのであれば、新しいスポーツ博物館が扱っていくべき資料が相当入っている可能性がある。
- 岸記念体育会館に保管されている貴重な資料をもしスポーツ博物館に集めるとなると、かなり膨大な建物と施設がないとできないということになる。JSC が賄いきれるのかという問題も含めて、スポーツの歴史をみんなでつくっていくためには、皆様方にも一定限の負担をお願いするというのも考えていく必要がある。当然すべてを承るというのも限界があるため、お互いの考えと負担の在り方も含めて検討させていただきたい。
- 各競技団体のいろいろな記録などは、各競技団体がちゃんと管理し、それ以外の全体のものとして手に余るものについては、検討いただきたいという考え方である。
- 先日私も倉庫を見てきたが、かなりの数の資料が保管されていた。例えば、国体の資料はどこの競技団体に属するのか非常に難しく、どこがどういう形で保管していくか、あるいは破棄していくのか、決めるのはなかなか大変なことだと思う。
- 資料4について、コンセプトにあるように「スポーツに関連する日本のナショナルセンターの役割を果たしていく」博物館を目指すのであれば、破棄される可能性のある資料をしっかりと確認した上で、新しいスポーツ博物館で保管・展示していくものをピックアップし、活用できるものはしっかりと預かって管理していくということをされたほうがいいだろう。
- 面積の考え方について、もともとあったスポーツ博物館は約 2,000 m²、当初の新国立競技場に移るのときの検討では体験的なもの、レストランや多目的ホールなどをイメージしていた部分もあり約 4,000 m²を考えていた。どういった場所にするのか、どういったコンセプトにするのかによっても変わってくるため事務局でも考えているところであり、何かアドバイスがあればご意見をいただきたい。
- 前の検討が 4,000 m²という話だったので、もしそれが実現できたら、今みたいな資料受入れの話はかなり吸収できるかなという気がした。
- 第2回会議の資料で収蔵庫の 950 m²という記載があるが、これだと全然足りないということなので、今のところは吸収できないということではないか。
- まずは既存資料の整理をさせていただき、少しスリム化をした中で、今後の収集方針を整理しながら、全体的にコンパクト化を視野に入れております。
- 我々の博物館でも、収蔵庫というのはスペースがどんどん足りなくなってしまうのが現状である。先程のお話を聞いていると、資料が散逸する恐れがあることが一番問題なのかなと思う。やはり資料はしっかりと保管管理し、それを整理した上で、国民に対する利活用に供すということが必要である。収蔵庫の面積というのは、全体の建物の規模感に大きくかかわってくると思うので、その辺は展示スペースとともに慎重に考える必要がある。
- 面積というのは資料収集の基本的な考え方につながってくるかと思うので、その辺を詰めて行く必要がある。
- コンセプトや意義のところに、スポーツにおける日本のナショナルセンターの役割ということがあったが、「スポーツに関すること」というとすごく広がってしまう。ここで言いたいのは「スポーツ文化」

ということではないか。博物館の意味というのは何で、スポーツ文化とは何か、スポーツとは何か、スポーツはどのように発展してきたのか。スポーツの記録を争う分野ではなくて、スポーツ文化というように絞っていくと、資料収集のヒントや、なぜそういうものを展示するのかということもかなり明確になってくるのではないかと。もう少し「スポーツ文化」ということを打ち出していったら、分かりやすいのではないかと思う。

- 博物館というのは設置の意義、そして使命というところを本当に明らかにするのが一番大事ではないか。そこからコンセプトに落とし込むと、当然収集範囲ということもある程度明確になってくる。先ほど話があったNFの資料の取扱いについても、大元の議論をしっかりとした上で、方向性が定めれば、新しいスポーツ博物館が保管すべき、収集すべきものなのかどうか当然明らかになってくる。そうするとどこに設置すべきなのか、また広さもどうあるべきかということがある程度見えてくると思う。このミュージアムに何を求めるのか、どういう存在意義をそこで発揮してもらおうのかということをしっかり議論することによって、役割分担も明確になってくると思う。
- 綾瀬倉庫を見学した時に、古いスポーツ新聞がたくさん置いてあった。図書館でもそうだと思うが、あんなものはデジタル化されているものだと思うが、それらも含めてカウントして 1,400 冊という新しい博物館の規模を計算されているのか。
- そこまではまだ検討が進んでいない。新聞の例では、初期の頃のスポーツ紙は確かに重要であるが、後になってくると逆に新聞発行者がコレクションを整備しているので、代替えできるもの、市販されているものは少し簡略化できると思われる。
- ほとんどの資料はデジタル化できるような気がするが、そこはどうか。
- 例えば本のような資料だと、文字の内容だけがわかればいいという考えであれば、それはデジタル化すればいいということになる。ただその本自体が文化財でもある訳で、本を解体し、その文字データだけを保存するのが果たしてよいかどうか。考え方の問題ではないか。
- 古い本をデジタル化するためには、作業や時間のコストがかかることもあり、国のほうでもデジタルアーカイブということをご議論いただいていることは承知しているものの、積極的にいつからやりましょうと言える段階ではなく、まだ先が見えていないのが現状だと思われる。
- 資料3のスケジュールを見たときに、物理的に博物館を設置するというハードの部分と、ソフトの部分がうまく整理しきれていないと感じた。何を残してどう整理するか、若干ソフトに近い部分の整理が立ち遅れていた中で、施設の大きさ、場所を議論してしまうと喧嘩してしまうというような感じがする。どの資料をどういう方針で、何を残すのか、どんな役割を果たすのかがあって、これは肝じゃないからデジタル化しようなどとなれば、そのための場所だったら別の場所で、倉庫でやっていただくというのも一つの方法ではないか。
- 所蔵資料の整理確認、資料価値の体系化というところをどの程度のものとするかによってスケジュールが変わってくる。じっくりやるとこの期間が長くなってしまうので、アーカイブのほうに切り替えていくなど、進め方をもう少し検討してみたい。
- 新しい博物館に全部移してそこからというよりも、どこかに設置しておいて、それで検討した方が、ゆっくりと判断もできるのではないかと簡単に決まるものではないと思うのでもう少し時間をかけて慎重に対応したほうがいい。予算の関係もあるので、建物は建物で出来上がりはこのぐらいしかできないということもあり、結局はそこに絞っていく必要が出てくるのでは。
- 新しいJOCのミュージアムに関して、資料の件ではデジタル化が進むから場所は半分で済むんだという

話があった。デジタル化するためにはお金や人手が必要であるにもかかわらず、デジタル化すればスペース的には解決できるんだという話で進んでしまっているところに問題が残ってしまった。

- 設置場所やスペースの大きさに関するご意見は非常に重要な点だと思う。一方で、新国立競技場にしても、神宮外苑地区そのものがどうなるか非常に不確定要素が多いなかで、どこまでのことを描けるか、多少ある程度幅を持ったまとめ方にならざるを得ない部分もある。いずれにしても、こういう選択肢を取ったらこうじゃないかというイメージをやはりある程度具体的に出るように、JSC とよく意思疎通しながら考えたい。

スポーツ団体が保有する資料の件は、JSC だけの手に余るような問題でもあり、緊急的にどうするかという、当面の手立てを別途考えなければならないことだと思う。よく統括団体のお話、実情を伺って、できるだけ大事なものが散逸するリスクを少なくする方策を考えたい。